

## 平成29年度 保育所の自己評価

伊勢原愛児園

自己評価の観点	内容及び課題
<b>基本方針と組織</b> 保育理念、保育方針、保育目標に いて、保育士間の共通理解が出来 ているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 子どもの最善の利益を考慮した保育の基本理念、基本方針、保育目                          標に沿って、子どもを主体とした日々の関わりや信頼関係の構築が                          出来た。</li> <li>• 経験の少ない保育士や非常勤保育士等の共通理解に努めたい。</li> </ul>
<b>組織の運営管理</b> 園内での職員の役割が明確であ り、情報の共有が出来ているか 経験に応じた保育士の連携が取れ ているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 職員間の役割分担をもう少し明確にする必要がある。</li> <li>• 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画がうまく機能しな                          かった。</li> <li>• 人材の採用や確保等、人事管理に課題が残った。</li> <li>• 組織として保育士の連携を深める必要がある。</li> </ul>
<b>適切なサービスの実施</b> 保護者と連携して、園児の情報を 生かした保育を行っているか 適切な情報発信を行っているか 保護者からの要望や意見に適切に対 応出来ているか 守秘義務を厳守しているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 利用者のプライバシーには極力配慮した。</li> <li>• 利用者の意見等には迅速に対応し、情報の提供も積極的に行った。</li> <li>• 入園時等には細かに説明を行った。</li> <li>• 守秘義務を徹底する事を心がけた。</li> </ul>
<b>子どもの発達援助</b> 子どもの自発的な活動、ねらいを 達成できる教材や遊具等、環境への 配慮が出来ているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備した。</li> <li>• 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めた。</li> <li>• 配慮を必要とする子や個々の子どもの発達段階への配慮等を共有す                          るため、定期的に連絡会を設け話し合いを行った。</li> <li>• 子ども同士のトラブルに対しても、子どもの自発性を尊重し、自分                          たちで解決できるよう援助していった。</li> </ul>
<b>子育て支援</b> 子育て支援の取り組み、子育て相 談としての機関の実施が出来ている か	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、必要に応じて個別                          面談などを行ない、普段の子どもの様子を伝えるだけでなく、情緒                          の不安になっている子の変化も伝えた。</li> <li>• 一人一人の保護者と丁寧に関わることで信頼関係を築いていった。</li> <li>• えんだよりに給食の献立等を載せることで保護者の要望にも応え                          た。</li> <li>• 保育参観、個々面談や保護者アンケートの実施から、保護者の要望                          等も取り入れながら保育の計画を改善していった。</li> <li>• 一時預かり保育の実施により、地域における一時的に保育を必要と                          する保護者の支援を行った。</li> </ul>
<b>安全・事故防止</b> 避難訓練、交通安全指導の実施、 健康・安全な生活の家庭への啓発、 家庭・地域・関係機関との連携、施 設・設備の安全点検の実施、アレル ギー児への適切な対応が出来ている か	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 毎月の避難訓練や隔月の交通安全指導の実施により、災害時の対応                          方法等を子どもにもわかる形で指導した。</li> <li>• 安全チェックリストに従い遊具等の点検を毎月行い、事故防止に努                          めた。また、想定できるヒヤリハットの解消に努めた。</li> <li>• 不審者の侵入時などに対応できるよう防犯訓練を年3回行った。</li> <li>• アレルギー対応には栄養士や保育士が会議を含め連携して行った。</li> <li>• 睡眠時呼吸等の確認により SIDS を未然に防ぐよう努めた。</li> </ul>

以上、保育所の自己評価を行いました。  
 結果をもとに振り返り、保育内容の改善、向上に組織として取り組んでいきたいと思ひます。

## 平成29年度 保育所の自己評価

比々多保育園

自己評価の観点	内容及び課題
<b>基本方針と組織</b> 保育理念、保育方針、保育目標に いて、保育士間の共通理解が出来 ているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 子どもの最善の利益を考慮した保育の基本理念、基本方針、目標に沿って、子どもを主体とした保育ができるよう努めた。</li> <li>• 新しい運営体制となり組織としての力が十分発揮できるよう会議等で意見交換を行った。</li> </ul>
<b>組織の運営管理</b> 園内での職員の役割が明確であ り、情報の共有が出来ているか 経験に応じた保育士の連携が取れ ているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 個々の職員に対して組織としての教育・研修等にもう少し力を力を入れるべきであった。</li> <li>• 人材の確保等、人事管理を積極的に行う必要があると感じた。</li> <li>• 実習生の受け入れ等が十分に実施できなかった。</li> <li>• 地域との交流を積極的に行った。</li> </ul>
<b>適切なサービスの実施</b> 保護者と連携して、園児の情報を 生かした保育を行っているか 適切な情報発信を行っているか 保護者からの要望や意見に適切に対 応出来ているか 守秘義務を厳守しているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 利用者のプライバシーにはできるだけ配慮した。</li> <li>• 利用者の意見等には、職員会議で改善策を検討し丁寧な対応を心がけた。</li> <li>• 入園時等には細かに説明するよう心がけた。</li> </ul>
<b>子どもの発達援助</b> 子どもの自発的な活動、ねらいを 達成できる教材や遊具等、環境への 配慮が出来ているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 子どもが心地よく健康で安全に過ごすことのできる環境を整えた。</li> <li>• 子ども一人ひとりへの理解を深め、発達過程に応じた保育ができるよう努めた。また、職員が共通の理解の基保育ができるよう会議や研修の機会を持ち自己研鑽に努めた。</li> <li>• 子ども同士の関わりの大切に子どもが自発的・意欲的に活動できるよう援助した。</li> <li>• 配慮を必要とする子への対応には、クラスだけではなく園全体で見守りながら、療育勉強会で学びを深めたり、関係機関と連絡を取るなどした。</li> </ul>
<b>子育て支援</b> 子育て支援の取り組み、子育て相 談としての機関の実施が出来てい るか	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 保護者の意向を理解・受容し、それぞれの家庭環境に配慮しながら、日頃より保護者との信頼関係を深め、子どもの育ちを家庭と連携して支援できるよう努めた。</li> <li>• 個々面談や懇談会等を通じて、保護者の子育てに対する不安や悩みに適切に応えられるよう努めた。</li> <li>• 一時預かり保育では、様々なニーズに応えられるよう積極的に受け入れを行った。</li> </ul>
<b>安全・事故防止</b> 避難訓練、交通安全指導の実施、 健康・安全な生活の家庭への啓発、 家庭・地域・関係機関との連携、施 設・設備の安全点検の実施、アレル ギー児への適切な対応が出来てい るか	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 毎月「避難訓練計画表」を基に地震・火災に備えて避難訓練を実施した。</li> <li>• 不審者の侵入時等に対応できるよう防犯訓練を年1回行った。</li> <li>• 毎月「交通安全指導計画」を基に子どもにわかりやすく交通ルールについて学ばせた。</li> <li>• 毎月「安全管理マニュアル&amp;点検チェック表」を基に事故防止に努めた。</li> <li>• アレルギー食等の対応には給食室と連携して細心の注意を払った。</li> <li>• 「危機管理マニュアル」について職員が周知をはかり、特に0、1歳児のSIDSの対応（睡眠チェック表）等保護者にも注意を呼びかけた。</li> </ul>

以上、保育所の自己評価を行いました。  
 結果をもとに振り返り、保育内容の改善、向上に組織として取り組んでいきたいと思ひます。